

市制50周年記念式典にて表彰される

十月八日(火)、文化会館において、市制施行五十周年記念式典が盛大に挙行されました。

式典には沼田県知事を始め、多くの来賓のご臨席のもと、これまで市に貢献された団体・個人に対して表彰及び感謝状が贈呈されました。

小野川と佐原の町並みを考える会と、町並み案内ボランティアの会も受賞し、加瀬代表と吉田会長が出席しました。



祝辞を述べる沼田県知事

受賞の喜びの声

保存とまちづくりの会員一同協力して活動してきたこと、官を巻き込み、官民一体の努力により、重要伝統的建造物群保存地区に選定されたこと等、今まで続けてきて本当によかったと思います。

会の結成十周年を迎える記念すべき年に受賞したことは、大変光栄です。(加瀬代表)

佐原が好き、だから佐原の良さを伝えていきたい。このような思いの人達が集まり活動してきたボランティアの地道な活動が少しずつ高い評価を得てきた。団体のお客様も年々増え、今年十月まで、百五十件という数を超えています。

町の方の意識も高まってきている時期に、この賞は大変励みになるものです。(吉田会長)

印西市ボランティアの会との交流会開かる

十一月七日(火)、印西市観光協会とボランティア協議会の皆さん二十五名が合同研修のため来佐しました。

山車会館見学後、三菱館において、佐原のボランティア会員との交流会が行われ、その時、話題になったのは、次の事項です。

一 町並み保存のための財政補助について

二 市民ボランティアと市(行政)や観光協会等との連携について

三 ボランティア活動の状況

四 団体客の数について

五 町が観光化することについて

六 ボランティアの活動財源は? また、印西市の方からは、「木下街道膝栗毛」のイベントについて詳しい説明がありました。

木下は佐原と同様、「河岸」として繁栄した町です。その歴史ある木下街道を歩き、ふるさとの素顔や心になれることのできるイベントとして、毎年大好評のようです。今年で十一回目を迎えてお



三菱館での合同研修会

“ゆっくりと味わう町並み”を目指して

近年、佐原の町並みや祭りが、マスコミの話題にのぼり、佐原を訪れる人が年々多くなってきました。二人連れや家族連れ、また小グループで、という観光客を市民の皆さんもたくさん見かけていると思います。町並み案内ボランティアの会でも、バスで来佐する団体の案内が年毎に倍増しています。案内に当たっては、佐原の良さを知って頂くと共にこれらの文化資産を保存維持していくため、来



手づくりお菓子を配る子ども達

サツマ芋のお菓子が大好評

福田小の子ども達が学校で育て収穫した、地域特産のサツマ芋が今年はお菓子となつて、十月二十一日(日)午後二時から三菱館、忠敬旧宅付近で観光客にプレゼントされました。午前中、学校の家庭科室で心をこめて作った七種類のお菓子は、子ども達が作ったとは思えない程おいしく大好評でした。

が親しいグループでゆっくり見に来たとか、家族を連れて来たなど、繰り返し来佐する人が多くなつていきます。このように一度きりの観光地としてではなく、リピーターを大事にすることで町の活性化や発展を目指して活動しています。

「お詫び」

前号の「古河探訪」(永井氏記)の文章中に欠落箇所がありました。ことをお詫びいたします。